

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に助けを求め。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器がない場合は、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類（化繊は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



《粉末・強化液消火器の場合》

消火器の使い方



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。 ホースをはずして火元に向ける。 レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎に近づき過ぎないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防

火災予防が一番!!

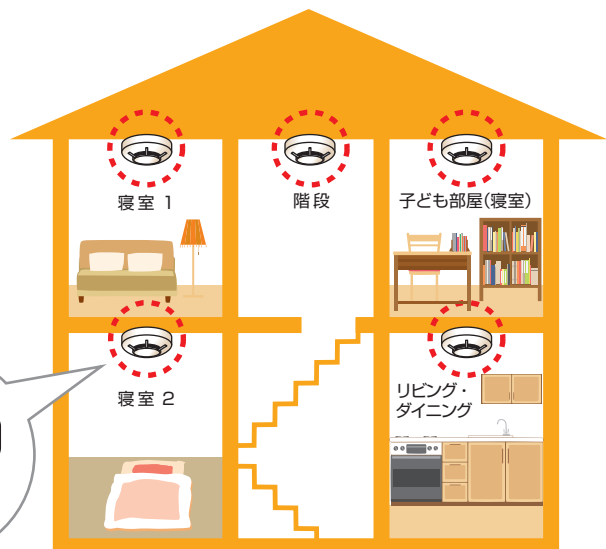
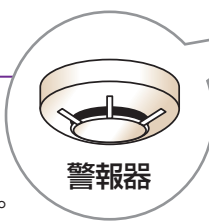
住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

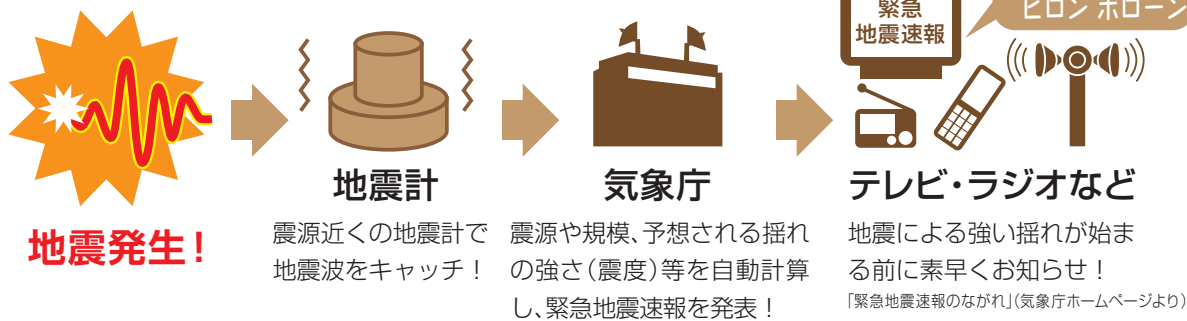
火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室（子供部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります）への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。



住宅内取付位置図

緊急地震速報のながれ



《緊急地震速報》

地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域に発表します。

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

最初の大きな揺れは約1分間

- ◆頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。
- ◆あわてて外へ飛び出さない。
- ◆無理に火を消そうとしない。

揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火。
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
- ◆津波などの危険が予想される地域はすぐ避難。
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意。

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- ◆隣近所に声をかけよう ◆災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う。
- ◆行方不明者はいないか。
- ◆ケガ人はいないか。

出火防止 初期消火

- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく。
- ◆漏電・ガス漏れに注意。
- ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める。
- ◆余震に注意。

ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆大声で知らせる。
- ◆救出・救護を。
- ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認。
- ◆デマにまどわされないように。
- ◆避難時に車は極力使用しない。
- ◆電話は緊急連絡を優先する。

協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう。3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく。
- ◆災害・被害情報の収集。
- ◆無理はやめよう。
- ◆助け合いの心が大切。
- ◆壊れた家に入らない。

屋内にいた場合

家の中

- ◆小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。
- ◆火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- ◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ◆避難にエレベーターは絶対に使わない。
- ◆炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などがいないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- ◆注意報・警報が解除されるまでは海岸に絶対に近づかない。

電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。
- ◆途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。